寛永諸家譜

清和源氏庚八冊之内
義光流之内佐竹

37

内閣文庫
番號 和 20199
冊數 186 (37)
函號 特 76 1

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

佐竹　山内

福村

寛永諸家系圖傳

庚一

清和源氏

義光流

佐竹

清和六代

頼義

信四位下

伊豫守

右馬頭

相模守

浅草文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

義家

八幡太郎　陸奥守　鎮守府将軍

義綱

賀茂次郎

義光

新羅三郎　従五位　刑部丞

義業

進士判官

左兵衛尉

昌義

佐竹冠者　下野守　常陸介

従五　法名義光

道号蓮真

隆義

左田四郎　常陸介

永永二年十月廿日卒去　六十六歳

法名寛月　道号隆義

秀義

佐竹別当　従五位下　常陸介

嘉禄元年十二月十八日卒去　七十

二歳　法名蓮實　道号秀山

義盛

常陸介　従五位下　右兵衛尉

建長四年二月廿五日卒去　六十七歳

法名蓮義　道号猶山

長義

左陸次郎

文永九年七月廿六日　卒去　年六十六

法名道義　号大山

義胤

為信孫次郎

正應二年四月廿日卒去　年五十二

法名覚義　道号乃山

行義

為信長次郎

永治二年七月十二日卒去　四十二歳

法名行義　号正山

貞義

次郎　壹岐守　上総介

文和元年九月十日卒去　六十六歳

法名道源　号嶽山

義房

右馬權頭

康安二年正月十一日卒去 五十二歲

法名淨妙 号雲山

義信

右近大夫將監 右京助

康應元年七月十四日 卒去四十四歲

法名聖義 道号海淵

義盛

右馬頭

應永十四年九月廿一日卒去 四十三歲

法名光盛 道号大淳

義人

右馬佐 右京大夫

建仁元年十二月廿四日卒去　六十八歳　法名本光　道号竹道

今按ずるに義人賢ハ上杉憲定の子なるはずの義憲と号す義慶婿となりて竹内の家をつぎ名を義人とあらためし

義俊

伊豫守

義治

文明九年十一月廿四日卒去　五十八歳

法名健暁　道号曜岳

義春

長享二年

延徳二年四月廿五日卒去　四十八歳

法名錦弓　道号一安

四位少将　右京大夫

永正十四年三月十二日辛亥四十八歳

法名道淵　道号還叟

義篤

大膳大夫

天文十四年四月九日辛亥　三十九歳

法名月光　道号溪心

義昭

右京大夫

永禄八年十一月二日辛亥

源真書記号寸

義宣

右馬頭

慶長十七年四月十九日辛亥　六十六歳

法名圓信　道号西庵

義宣

右京大夫

天正十八年十二月廿二日従四位下に叙し侍従小将す

寛永三年八月十九日従四位上右近衛

権中将に任ず

同十年正月廿五日辛亥　六十四歳

法名天英　道号像堂

義隆

治理大夫

實ハ岩城忠次郎貞隆が嫡男貞隆ハ

義宣二男ふして義宣が弟なるゆへ

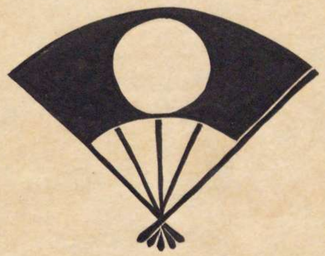
義宣子なきにより義隆を継子

家老中務義久　天正十九年正月二日

従五位下に叙し中務大輔と号す

寛永三年八月十九日 法印法下侍従
に組ず

家紋



先祖より隆義まで白旗なり秀義
の時頼朝より源氏紋とそ
四郎

慶長十九年十一月廿六日指列大坂今
福表合戦乃時義宣家人軍功ある
ゆえ翌年正月御感状をた
四郎兵衛尉
今度御指列大坂今福表一戦
ゆえ合戦抜駆ス条形貴ス
感ス名人や
慶長二十
正月十七日 秀忠御判
戸村十太夫殿

今度於二摂州一大坂今福表一防戦之列合一被刻数ケ所疵
之条世上動彩肝之感
思召や
寅ノ二十
正月十七日 秀忠御判
坂津宗右衛門殿

今度於二摂州一大坂之福表一防戦之列合一被渇彩肝之条感思
召や
寅ノ二十
正月十七日 秀忠御判
佐々内蔵助殿

今度於二摂州一大坂之福表一防戦之列合一被渇彩肝之条感思
召や
寅ノ二十
正月十七日 秀忠御判
大塚九郎兵衛殿

今度御指別　大坂ヶ海表防
戦之儀ニ付　被遣粉骨之条感
思召や
寅ヶ年二十
正月十七日　秀忠御判
黒澤長清奉之

同時被仰渡
御膳物　次直
御膳物　代国
長服　一重　御召服一
戸村十大夫
横澤長清
伊奈内蔵助

同
同
同所歌と討者
小川刑部左衛門
小野崎織部
小林川四郎
高屋土左衛門
石成孫右衛門
大塚九郎兵衛
黒澤長清
江尻軍兵衛
加藤主殿
高橋源左衛門
滑川八左衛門
此外長柄中ニ百五人

同所討死の者

名ハ高名晩より防戦の所討死

小賀崎源左衛門　　渋江内膳

中村作治　　高垣長左衛門

宇佐見三十郎　　白土加左衛門

神谷長五郎　　町田小左衛門

小田部与左衛門　　松尾三十郎

同歩り

根本治大夫　　芳賀与左衛門

内田金左衛門

討死渋江内膳下

黒川治左衛門　　飯木西左衛門

須野半左衛門　　戸糸十左衛門

歩り　　黒柳治内

駒内六左衛門

国立公文書館
National Archives of Japan

山本　福村

正忠

四ツ谷　甲國之河
清康君　廣忠卿ヨリ清康ヘ事歟
病死可ル　年八十二　法名道善

正継

新右衛門　九ツ谷　生母同家

東照大権現へ仕へ奉れ
関東御入国の時病ありて隠居
せず　病死時小八十歳

猪正

福村と名乗　生国同所
母の氏を名乗て山本とあらため
福村と称號す

大権現

猪長

名徳院殿へ仕へ奉りたち　始る
しかく忠長卿へ属し奉り八十歳
ふく病死

政重

市左衛門　生国武蔵
忠長卿へ仕へ奉り代々召抱れ
勘右衛門　長左衛門　生国同所

白川院殿
北軍家へ行幸あり武列八王子の沙
代度と申す

正重
助兵衛

正吉
四兵衛　生田三河

大橋坂へ行幸あり
愛宕十九年三月高須より御帰地
とゝ酒井大坂表度の御陣より供
奉す
元和二年
白川院殿へ行幸あり数度の沙上源
供奉す
同六年　東福門院御上洛ア供奉
沙入内の河内坪のつきとなり

寛永三年二條の御城へ出座の時
備の御面々ならびに御座敷の御番と
仕る

同四年　鈎命をもって御納戸の役
を相勤む

同九年

将軍家へ御年賀大御番をつとむ

同十年二月七日武列右田ようおなく
御加増をとらるる事

正治

忠長卿　生國同所
實名助長卿正重の子なり
寛永四年十一月廿八日
石清院殿と称し奉てまいる事
同五年小十人組となり御切米をた
まわる事
同九年御切米に御加増あり

国立公文書館
National Archives of Japan

同十一年
将軍家御上洛被遊候

正義

又左衛門
元和七年　生駒之河
右法院殿と称し奉る
同八年　鈞命をもつて御番を
ひとつめ御切米を被仰付

寛永三年御上洛乃河佐衛御切米
被遊加増候
同九年
将軍家へ参勤
同十年七月小十人組の頭となる
同十一年御上洛被遊
同十八年十月　鈞命ふくして御番
を御赦免

正次

七郎左衛門　生國同所

寛永二年

右法院殿と相談し御番を相勤し

同四年御切米をたまはる

同九年

将軍家へ御番を勤し

同十年下総国大野小おかゝ死を

仕る

正次

九左衛門　生國同所

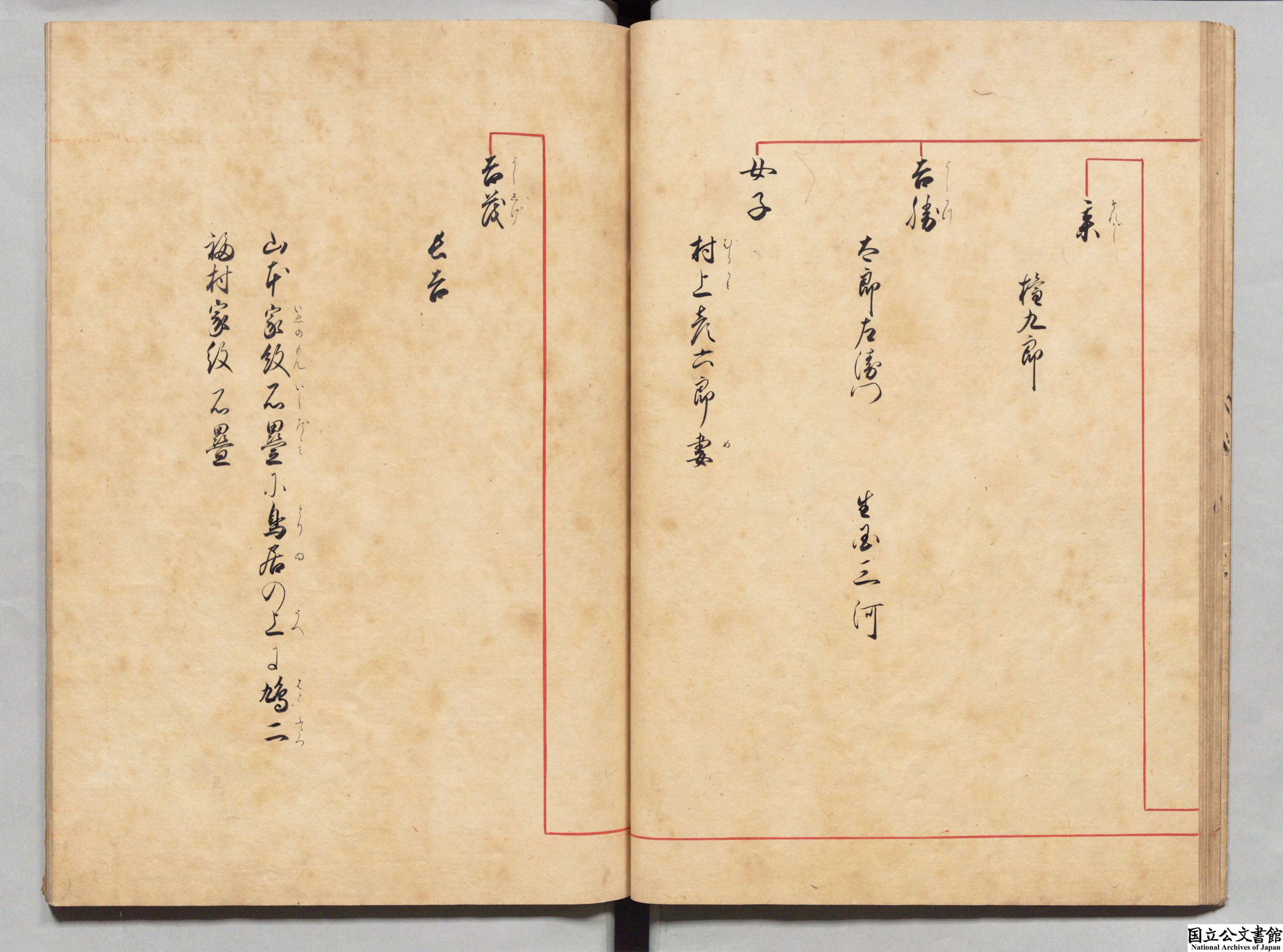
寛永七年

将軍家を相語し奉る

同八年大御番を相勤し

同十年相列(さうれつ)仕る小おかゝ死を

仕る



- 兼
  - 権九郎
- 右衛
  - 左郎右衛門
  - 生国三河
- 女子
  - 村上長六郎妻

- 右義
  - 左右
  - 山本家紋石畳小鳥居の上ノ鳩二
  - 梅村家紋石畳

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

山本

近江判官義隆乃末流

正高

長右衛門　生国之列

松平豊後守殿之列播州より住す

七十歳ふく病死

法名善休

重成

新左衛門　生国同所

永禄十二年

東照大権現ゟ被仰付尾州小牧陣

のとき彼地小牧ゟ首級を取

天正十八年小田原陣ゟ仕

慶長五年関ヶ原陣の時使番と

なり仕首級を取り陣の後御

加増五百石を被仰付

大坂夏度の陣小使番として仕

大権現薨御の後

台徳院殿御代へ御加増百石を被

元和二年十二月廿六日六十二歳にて病

死　法名道運

右正

新左衛門　生国同所

天正十九年

大指現小隊へ参る関が原大坂表出陣

仕事可

大指現薨御の後

石田隠居

将軍家へ仕へ参る

寛永十六年十月十六日病死 六十五歳

法名松月

重吉

新出来

生駒城列

寛永七年

石田隠居と移居し参る薨御の後

将軍家へ仕へ参る

家紋 九の内 白鳩一番

国立公文書館
National Archives of Japan

山本

先祖信列ノ仁人なり

正縄

又助　生田三列

清廉君子なり

縄義

又十郎　生國同前

廣忠卿ヲ法名ヘ葬

繩次

子ニ治濤　生母同家

東照大權現

台德院殿

為軍家ヲ毒湯ヲ

病死歳八十五　法名要珠

正傳

子ニ治濤　生國武蔵

寛永二年

為軍家ヘ法名ヲ

次正

十七歳

元和元年　生母同前

拘軍家と称し

家紋九の内ふたつ巴

山内

義時

左衛門佐　生年五歳　後列

今川義元ハ法名ハ後列ノ円藁科ヲ

以地ヲ相續ス

永禄九年二月七日死ス年三歳　法名

京現

正義

忠義藩　生國同前

正義十六歳ふしてて

東照大権現へ召出され奉謁す

元和元年六月婦川合戦の時正義十

七歳ふして先手し首級を挙ける後

大権現御出陣の時毎度先手し首十

二級をとりて立ケ原の戦を勤ける

天正十二年長久手合戦の時首級を挙

く戦をかけ山乗出し敵屋七名落う

けられ申ふて

大権現より疱瘡とゝ迄ましまへ

醫師丸山市右衛門と申ふ者療治を

以て後後別業科の間よおかて修地

と為仕す

同十八年関東御入国ふて御先手之後

石濱院殿

将軍家ヲ守護ス

寛永十一年正月廿四日八十一歳ヲ以テ

死ス　法名英珊

正勝

子九郎　生母玉茂義

正勝十三歳ヲ以テ

台徳院殿ヲ奉ス大坂夏陣ノ時

小田原城中ヲ組ヨリ脱ス

正直

墨年大坂再乱ノ時首級ヲ獲ル

平九郎　生母国同ノ

元和四年

将軍家ヘ守護ス

家紋一巴柏葉

国立公文書館
National Archives of Japan

山本

清近

甚次郎　生國之列

大槽沢へ住ス

天正二年九月廿七日病死歳七十

近正

後右清同家

大猷院

台徳院殿と称す

寛永六年九月十七日病死　七十一歳

盛近（もりちか）

母大蔵卿　生母武蔵

台徳院殿

将軍家と称す（しょうぐんけと）

家紋九曜丸巴（くよう）

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

山本

生國甲斐

九良左衛門

武田信玄

国立公文書館
National Archives of Japan

武田信玄ヲ従ヘ
大指現ヘ石出ス
[illegible]可

政法

与次左衛門

大指現

石淵院殿ヲ従ヘ
[illegible]

政重

[illegible]次郎　生國武蔵

将軍家ヘ従ヘ
[illegible]

家紋右巴

国立公文書館
National Archives of Japan

山本

生田尾刑

子三右衛尉

尾刑岩金氏

邑重

小六郎

生田同家

信ぜられへく數度の働あれども
尾張内府へ献ぜし鉄炮を拾と称する
天正十六年四十九歳にて病死

邑次

六右衛尉　生国同前
尾張内府へ邑重が代へ鉄炮
拾挺を献ぜられ内府没落の後
大猷院へ召出されへ事歟

邑政

慶長五年関原陣に供奉の後
石徳院殿へ召出へ事歟

邑政

平六郎　生国武蔵
實は高木義右衛門なれども高木は又源氏
なれば邑政が男山内六郎邑次が養子
となりて高木家を継へく高木の系図別に
載す

白洲院殿と為す　京都
大坂西度ハ沙陣小法華

家紋ハ丸の内小二つ引後ハ
丸の内ゟ梅輪(じのくら)内

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan